調査は件数僅少の為正確を期す事が出来なかつた。

(大阪検疫所)

三重県における毒蛾の発生記録: 的場孝郎 Matoba, T.: Records of the outbreak of *Euproctis flava* in Mie Prefecture

昭和30, 31年6月下旬より7月中旬三重県下全域に亘り散発的ではあるが相当数の毒蛾の発生をみたので報告する。県下の発生状況は各保健所(11保健所)の調査にもとずき半旬別に発生数を表示してみると次のとおりである。

年次	半旬	6 月			7 月				計
		第4	第5	第6	第1	第2	第3	第4	
昭	30	0	0	151	35	20	17	0	223
々	31	3	200<	600<	37	0	0	0	840<

調査は県民から保健所によせられた届出を中心としているため、その起日、発生量は必ずしも正確ではないが、表に示す如く発生時期は6月下旬に最盛期がみられ、7月中旬にはほぼ終煩する模様である。発生量29年以前の調査が充分でなく、比較することは困難であるが、30年の発生量に比較し31年は上廻つた発生があつた。特に志摩地方では6月26, 27日に多数集団飛来を認め、その他県下の各市街地にも飛来を記録している。また5月には各地で幼虫の発生を発見捕殺したこと等から推察すると、一応三重県の場合も全国的な大発生の傾向と同步調をとっているようである。なお大発生のあつた愛知、岐阜の両県に隣接した三重県北部での発生状況は、四日市市に比較的多数の発生をみたが、その他の地方では新聞誌上で騒がれた程の発生を認めなかつた。次に毒蛾による被害者は14名であり、越冬幼虫によぬ被害の届出はなかつた。(三重県衛生部)

福井県のブユについて(2): 大瀬貴光・福島俊定・前田嘉右衛門・堀晏・多田哲夫・小原寧 Ohose, T., Fukushima, T., Maeda, K., Hori, Y., Tada, T. & Ohara, Y.: On the black fly in Fukui Prefecture (2)

昭和30年7月から8月に亘つて報告の地区以外において嶺北一帯の20地区22カ所で蛹の採集を行い分布状況を調査した。採集し得た種類は *S. (W.) salopiense*, *S. (E.) uchidai*, *S. (S.) japonicum*, *S. (S.) venustum*,

S. ((O.) aokii, *S. (G.) nacojapi*, *S. (O.) bidentatum*, *S. sp.* (クジツノマユブユ) *S. (E.) subcostatum* の9種であつた。クジツノマユブユは今回新に追加することができたものであり、本種は少数ではあつたが主として山脚地帯に認められ、源流からも採集されていずれの場合も *S. nacojapi*, *S. bidentatum* 等と混棲していた。蛹の混棲状態は少なくとも2種、多い場合は6種で平坦地では *S. aokii*, *S. venustum* ≧ *S. uchidai* 或は *S. salopiense* であり、山脚地では殆んどの場合 *S. aokii*, *S. venustum* ≧ *S. uchidai* であるが数地区において *S. aokii*, *S. venustum* ≧ *S. nacojapi* > *S. bidentatum* > *S. sp.* の組合せがみられ *S. aokii*, *S. venustum* は分布が極めて広く量的にも圧倒してブユによる被害の大部分は本種によるものと思われる。本県のブユは今回採集されなかつた *S. mie* を加えて5亜属10種を記録した。しかし *Prosimulium* 属の分布については全く解つておらず、現在迄の調査は地域的にも時期的にも局限されたものである。将来の詳細な調査によつて完璧を期するつもりである。

(福井衛研)

1956年名古屋市に於ける蚊の季節的消長: 成田陽 Narita, Y.: Seasonal distribution of mosquito at Nagoya in 1956

1956年5月14日より10月19日まで、名古屋市中川区の某馬舎で(付近は住宅地であるが可成り水田が散見される)、週1回午後8時より30分間、壁面に静止している蚊を吸虫管法で採集した。採集回数21回である。馬舎に侵入する主な蚊は、コガタアカイエカ、アカイエカ、シナハマダラカの3種である。採集総数2926匹でその内訳はコガタアカイエカが圧倒的で2212匹で75.6%で首位、次はアカイエカの424匹で14.5%、シナハマダラカは290匹の9.9%である。**コガタアカイエカ** 馬舎侵入蚊の首位。5月14日末見。5月29日2匹採集初見、27年度は5月31日初見、26年度は5月28日初見、例年5月下旬頃出現している。終見は9月28日で以後は見られない。例年9月下旬から10月上旬消失。本年度の消長は5~6月の降水量が多かつた為か例年に比して少く、7月に入るや急激に増加し7月が最盛期で、6月25日の18匹に対し2週間後の7月9日には322匹で爆発的に激増し、本年の山は7月18日の510匹である。昭和26年度は8月10日、27年度は8月8日であつた。8月以降漸減し9月28日の1匹が最終見であつた。26年では9月18日、27年は10月2日が最終見であつた。**アカイエカ** 本年度産卵初見は3月29日である。蚊柱現象初見5月2日、26年度産卵初

見 4 月 1 日, 蚊柱 4 月 29 日, 27 年度産卵初見 4 月 6 日, 蚊柱現象初見 5 月 1 日であつた. 本年度の最高の山は 7 月 18 日でコガタアカイエカと同様である. 26 年度では 7 月 23 日, 27 年度では 6 月 30 日である. アカイエカは年間活動し秋冬の候も散見される. **シナハマダラカ** 馬舎侵入数は少く, 9.9% である. 26 年度の 20.3%, 27 年度の 20.1% に比較して激減している. 6 月 4 日初見である. 26 年度では 6 月 5 日, 27 年度では 5 月 31 日である. 本年度最高の山は 7 月 27 日で 62 匹である. 26 年度では 7 月 31 日で 115 匹, 27 年度では 7 月 31 日の 94 匹である. 最終見は 10 月 19 日である. 26 年度では 9 月 31 日, 27 年度では 9 月 18 日であつた. 26 年度は本誌 Vol. 3, Nos. 3・4, 27 年度は Vo. 4, Nos. 1・2 に於て発表した.

(名古屋市立八幡中学校)

1956 年岡山県下に於ける蚊の消長と日本脳炎について:
 稻臣成一・木村道也・水落理 Inatomi, S., Kimura, M. & Mizuoti, O.: On the incidence of Japanese B encephalitis and seasonal distribution of mosquitoes in Okayama Prefecture in 1956

毎年日本脳炎の多数発生する岡山県南部に於て, 山陽本線にそつて東より吉永, 瀬戸, 岡山, 玉野, 倉敷, 水島, 玉島, 笠岡の各所に夫々同型の lighttrap を配置して 6 月より 9 月末まで週 2 回蚊の採集を行つた. アカイエカは何れの土地に於ても全期間採集され 8 月下旬やゝ活動不活発であつた. コガタアカイエカは 5 月 20 日水島で始めて採集された後 6 月中旬乃至 7 月始めにかけて倉敷, 岡山, 玉島, 瀬戸等中央平地部で採集され始め, 東西地区はこれよりやゝおくれ各地共最盛期は 7 月下旬より 8 月上旬までであつた. 一方日本脳炎は戦後の最高を示し, 県下で 377 名発生したが, 前述のようにコガタアカイエカの東西地区より早く出た中央部に於て最も多く最盛期の後 2—3 週に於て発生している.

(岡山大・医・寄生虫)

炭砒坑内(常磐湯本砒)に於ける鼠族の棲息状況とその駆除について: 馬場道夫 Baba, M.: Report on the population survey and the control of rats at the coal-mines Jōban mines, Yumoto

福島県平市郊外の常磐炭砒湯本砒に於て昭和 31 年 3 月末から 4 月始にかけて, 炭砒衛生管理者の協力のもとに, 始めて坑内鼠族の棲息状況とその駆除を実施した結

果の一部を報告する. この炭砒は日本でも有数な大炭砒で 4 つの砒から成つている. 炭砒住宅に於けるねずみ駆除は, 民衆組織の活動による駆除を数回実施して居るので 70% 成功の域に達して居る. 所が坑内に人車を利用してねずみが移動し坑内に於て, 棲息していることが確められたので, 危険をおかして坑内ねずみ駆除を実施した次第である. 坑内夫の入坑は 1 番方午前 6 時から午後 2 時迄, 2 番方午後 2 時から午後 10 時迄, 3 番方午後 10 時から午前 6 時迄と三交替になつている. 実施期日は 3 月 28 日から 4 月 2 日まで連続 6 日間機械による捕そ(トラップ 5, 金網籠 15)を実施した. 第 1 日目は, 1 番方作業中 18 頭, 2 番方 10 頭, 3 番方 12 頭, 計 40 頭である. 第 2 日目は 1 番方 10 頭, 2 番方 3 頭, 3 番方 3 頭, 計 16 頭である. 第 3 日目は 1 番方 16 頭, 2 番方 11 頭, 3 番方 6 頭, 計 33 頭である. 第 4 日目は, 1 番方 4 頭, 2 番方 3 頭, 3 番方 0 頭, 計 7 頭である. 第 5 日目は, 1 番方 1 頭, 2 番方 3 頭, 3 番方 0 頭, 計 4 頭である. 第 6 日目は, 1 番方 4 頭, 2 番方 2 頭, 3 番方 6 頭, 計 12 頭である. 時間別に見ると, 1 番方の捕そが 53 頭 (44%), 2 番方が 32 頭 (27%), 3 番方 (23%) で, 合計 112 頭となつている. 種類別に見ると, 8 割がイエネズミで, 2 割がドブネズミである. 坑内夫は生物を大切にするため弁当の残菜等を餌として生育している. 此処のねずみの棲息状況について特に注目すべきことは, 坑内は湯本温泉の源湯であり, 炭砒としては日本一暑い地下 2700 尺の坑内であり, 湿度 75% 以上の場所において, 坑木等の間に生存しているのが, 注目される. これより推察するに鼠族は, 温湿度に相当抵抗力あるものと考えられる. 今後第 2 回, 第 3 回と実施する予定である. そしてこの点について今後更に検討する必要がある. (福島保健所)

大阪地方の恙虫の研究(第 2 報): 武衛和雄・藤戸貞男
 Buei, K. & Fujito, S.: The trombiculid mites in Osaka Prefecture (II)

1956 年 11 月から 1957 年 2 月にわたり, 大阪府下において恙虫の調査を行つた. 今回の調査地は標高 200~500 m の山間地で, 山林, 田畑等において行つた. 捕獲された野鼠は, ドブネズミ 1, ハタネズミ 14, スミスネズミ 1, ヒメネズミ 3, アカネズミ 34 頭及びヒミズモグラ 6 頭総計 59 頭であつた. 付着していた恙虫は, 3 属 12 種 (4,143) で, 多いものから順にあげると, *T. fuji*, *kochiensis*, *kansai*, *Gahrlepiea* sp., *T. palpalis*, *tamiyai*, *pallida*, *japonica*, *intermedia*, *tanaka-ryoi*, *kitasatoi*, *E. ikaoensis* となり, 前回の調査よりさらに, *T. intermedia*